

自然ふれあい講座 報告

野尻湖の水草観察

8月25日(土) 10:00~12:00 参加者:15名

ソウギョの放流により一度は壊滅状態になった野尻湖の水草帯を復元しようとする活動が地元の博物館や住民を巻き込みながら進められています。講座当日は厳しい残暑の日差しでしたが、小舟をつかって水草復元の実験区をめぐり、復元の現状や課題について学習しました。沿岸帯の実験区ではヨシ、フトイ、ヒメガマ、セキショウモなどを、また沖合の4m水深の実験区ではホシツリモの生育のようすを水中カメラなども使って確認することができました。一方、ソウギョ避けネットを設置していない場所では水草はほとんど確認されず、放流後約30年を経ても依然として強い影響を与えているソウギョの食圧を実感していただけたと思います。

(北野 聡 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



ヨシ・フトイ・ガマの定着状況を見る参加者

自然史王国信州を歩く ~山岳の自然と自然保護~

9月9日(日) 7:40~12:00 参加者:24名

「自然史王国を歩く」シリーズの一環として、昨年の浅間火山につづき、今回は氷河地形で有名な中央アルプスの千畳敷を会場に講座を開催しました。当日は天候にめぐまれ、雄大な地形と秋の植物などを観察し、中央アルプスの形成史や、氷河地形のでき方、かつての氷河期の気候と現在のお花畑形成との関連、中央アルプスの高山植物の特徴などについて話題提供をしました。参加者の半分以上は地元や南信の方でしたが、東信や北信からはるばる参加された方もおられました。標高2600mを超える場所は非日常空間で、研究所の自然ふれあい講座開催地としては最高記録です。そのため、交通や天候条件には特別の配慮を必要としましたが、トラブルもなく、高山帯の様々な魅力に触れていただくことができました。お昼の講座終了後、参加された皆さんは思い思いに散策を楽しんでいらっしゃいました。

(富樫 均・尾関雅章 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



岩壁を背に氷河地形を観察

出前講座を行いました

食品の安全性について

日時: 10月29日(月) 18:30~20:15

参加者: 20名 場所: ビレッジ安曇野

遺伝子組換え食品・食品添加物・残留農薬の種類と安全性・表示・検査方法等についてお話ししました。輸入食品の安全性に対する厚生労働省や自治体でのチェック体制、自家製マーマレードへの農薬や防ばい剤の残留について質問がありました。食の安全を揺るがす事件が続発する中、熱心に聴いていただけたと思います。

(白石 崇 kanken-hoken@pref.nagano.jp)

ツキノワグマの生態と人身被害防除について

日時: 11月26日(月) 14:30~15:50

参加者: 100名 場所: 美麻小中学校

平成18年度の全国的なクマの大量出没がなぜ起きたのか、クマの生態と、その要因として里山が放置されクマが息できる環境が拡大し人里と接してしまったこと、その年は深刻な餌不足があったことなどを説明しました。クマに出会ったときの対処法などの紹介も行いました。小中学生からは、死んだふりは本当に役立つかなどの質問が出されました。

(岸元良輔 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



研究所日記

ウイルス検査、冬本番となりました

寒くなり、鍋料理の恋しい季節となりました。そうなると我が感染症班、特にウイルス担当スタッフは臨戦態勢に入ります。インフルエンザウイルスやノロウイルスによる感染症が、毎年このころから流行りだすからです。県内の小中学校などで集団風邪が発生しているとか、飲食店などで忘・新年会をしたお客さんがおなかの調子を崩している、といった通報が入ると、保健所ではいろいろな調査を行うこととなります。ただしウイルス検査に関しては、当所が担当していますので、シーズンにはほぼ毎日のように県内各地から検査のための材料(患者さんののどや鼻の奥のほうを拭った綿棒や便など)が届けられます。検査材料が届けられると、できるだけ早く結果を出さなければなりませんので、てんやわんやになることもあります。

すでに、今シーズンもインフルエンザウイルスやノロウイルスが、多くの患者さんから検出されています。インフルエンザについては例年よりも1ヶ月近く流行時期が早く、主にAソ連型と呼ばれる型のウイルスが検出されています。一方、ノロウイルスについては、昨シーズンと同様にGⅡ/4という遺伝子型のウイルスが流行しています。

最後に、インフルエンザやノロウイルスにかからないようにするために、以下のことに気をつけましょう。

- 規則正しい生活を送りましょう。
- 帰宅時、トイレの後には石鹸をよくあわ立てて手を洗いましょう。
- 帰宅時にはうがいをしましょう。
- インフルエンザについてはワクチン接種をお勧めします。

(吉田徹也 kanken-hoken@pref.nagano.jp)



検査の様子

報告

第2回外部評価委員会が開催されました



外部評価委員会

研究所では、業務や調査研究が真に県民や行政のニーズに答え得ているか客観的かつ公正に判断するため、外部評価を実施しています。

第2回外部評価委員会が平成19年11月27日(火)11:00~16:30に飯綱庁舎において開催され、調査研究を対象に9名の委員の方々から評価を受けました。日程は、午前には庁舎の視察、午後は調査研究8課題について説明と、評価・講評が行われました。

講評では、県民にとって必要で適切な課題であり、研究内容が高度との評価をいただいた一方、長野県の研究所としての独自性・特徴が更に出るような研究をしていく必要がある、研究成果の県民への還元が課題である等のご意見をいただきました。(第1回の評価結果は当所ホームページで公開中です。http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen)

(企画総務部 kanken@pref.nagano.jp)

【お詫び】

本誌第20号(2007年11月25日発行)の内容に、一部誤りがありました。p.8の「長野市環境子ども会議」は、正しくは「長野市環境こども会議」でした。読者ならびに関係者の皆様にお詫びいたします。

編集後記

- 21号をお届けします。特集「食の安全と安心ー残留農薬!?!ー」はいかがでしたでしょうか。
- 本誌は、研究所の活動や長野県の環境保全および保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することが目的です。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

(編集担当:企画総務部)

次号のご案内

次号は3月に発行予定です。「最近の話題」「トピックス」「平成20年度イベントのご案内」等を掲載する予定です。